

**製品名: T2R5 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab18575**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	35kDa

**抗原情報**

遺伝子名	TAS2R5
別名	TAS2R5; Taste receptor type 2 member 5; T2R5
遺伝子 ID	54429.0
SwissProt ID	Q9NYW4
免疫原	抗血清はヒト TAS2R5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 178-227

**背景**

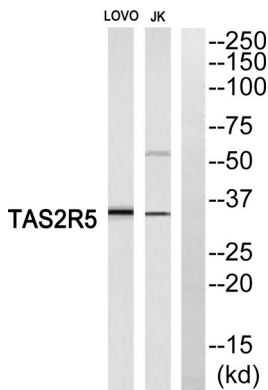
この遺伝子は苦味受容体をコードします。苦味受容体は G タンパク質共役受容体スーパーファミリーのメンバーであり、舌および口蓋上皮の味覚受容体細胞によって特異的に発現します。これらの明らかにイントロンのない味覚受容体遺伝子はそれぞれ、苦味受容

体として機能する7回膜貫通型受容体タンパク質をコードしています。この遺伝子は、7番染色体上で他の3つの候補味覚受容体遺伝子とともにクラスター化しており、苦味知覚に影響を与える遺伝子座に遺伝的に連鎖しています。[RefSeq提供、2008年7月]機能:苦味知覚に関与する可能性のある受容体で、ガストデューシンと連鎖しています。消化管内容物の化学組成を感知する役割を果たしている可能性があります。この受容体の活性は、 $\alpha$ ガストデューシンを刺激し、PLC- $\beta$ -2の活性化を媒介し、TRPM5のゲーティングにつながる可能性があります。、その他:ほとんどの味覚細胞は、限られた数の苦味化合物によって活性化される可能性があります。個々の味覚細胞は苦味刺激を区別することができる。、類似性:Gタンパク質共役受容体T2Rファミリーに属する。、組織特異性:舌と口蓋上皮の味覚受容体細胞のサブセットで発現し、ガストデューシン陽性細胞でのみ発現する。、

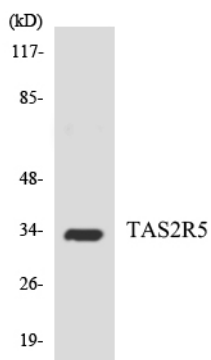
## 研究分野

味覚伝達:

## 画像データ



TAS2R5抗体のウェスタンブロット解析。右レーンにはTAS2R5ペプチドでブロッキングされている。



TAS2R5抗体を使用したHepG2細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。